



公益社団法人

日本語教育学会

2017 年度支部活動【中国支部】開催報告

「外国人と関わる実務家のためのワークショップ」
-外国人から話（体験）を聴く方法-司法面接(NICHD ガイドライン)を学ぼう-

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）
「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」

開催日：2017年11月4日（土）

会場：徳山大学 1141 教室

参加者：19名（会員8名・一般11名）

今回の支部活動は、日本語教育関係者をはじめとして、様々な領域の教育関係者、研究者、国際交流に関わる職員、企業関係者など、多彩な所属の方々に全国からお申し込みいただきました。

当日は、趣旨説明の後、立部文崇先生（徳山大学）による「外国人の会話能力」についての講義、上宮愛先生（立命館大学）による「司法面接の概要」についての講義が午前中に行われました。ランチ・ミーティングの後、午後からは、四つのグループに分かれて、ペアワークや実際に留学生から話を聴くロールプレイなどの演習をおこない、事実をありのままに聞き出す面接の技術について学びました。

ワークショップ後のアンケートには、日本語教育関係の参加者からは、「より現実的な問題として感じることができた」、「実際にやってみたら案外難しかった」、「日本語教育の周辺領域を学ぶ貴重な機会となった」、「これまで学習者にクローズド質問（または WH 質問）ばかりしていたことを自覚できてよかった」、「研究のデータ収集において研究者のバイアスが入らないデータを得るための方法として使えそう」などの感想が寄せられました。また、日本語教育以外の参加者からも、「フィールドの異なる方々と知り合うよい機会となった」、「今後の自分の仕事に活かしたい」、「学生への進路相談などで学生自身が本当にやりたいと思っていることをちゃんと聞き取って指導していく場面で使えそう」などの感想が寄せられました。

「司法面接」という一見とっつきにくい内容にもかかわらず、参加者の皆さんが自らの活動現場や問題意識に引き寄せて、積極的に参加してください、講師や運営側にとっても学びの多いワークショップとなりました。休憩時間があまりなかったことや、面接計画を立てる時間が短かったことなどの反省点もありますが、充実した一日を過ごすことが出来ました。

最後になりましたが、会場を提供して下さった徳山大学および運営に協力して下さった皆様、参加して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

（報告者：羽瀧由子・永田良太）



ロールプレイによる面接場面



面接のふりかえり場面